

元気企業に迫る！

安心院・院内エリアの

わたなべ豆腐店



代表の門前雅之さん

地元産の素材を使用した 豆腐や豆乳の開発に挑戦

昔ながらの製法にこだわった豆腐をはじめ、油揚げや豆乳、プリンなど国内産の大豆を使用した自社商品を販売する『わたなべ豆腐店』。最近では「4色豆乳」など新商品の開発にも力を注いでいる。

「国産大豆のおいしさ、味わいを届けたい」と、素材を生かしたこだわりの豆腐づくりを手掛けるのは、代表の門前雅之さん。2007年から職人として同店で働き、2013年に2代目として引き継いでからは、新商品の開発にも積極的に取り組んでいる。先代のころからつくっている「ざる豆腐」、「もめん」「よせ」に加え、2018年には地元産の黒大豆「クロダマル」を使った商品を開発した。実は宇佐市は、クロダマルの生産量日本一。「加工品のラインアップを増やしたい」という宇佐市の要望もあり、「黒大豆ざる豆腐」や「黒大豆田舎揚げ」など独自の商品づくりに力を入れてきた。クロダマルは特有の甘味をもち、なめらかな食感が特徴。普通の大豆に比べて固まりにくい性質に苦労したが、完成した商品は宇佐ブランド認証品となり、評判も上々だ。



1. 挖りごたつのある食事処。広々として開放的な空間。
2. キュートな色合いとデザインの「4色豆乳」は湯上がりにもおすすめ
3. 商品はすべて豆腐職人で代表の門前雅之さんが手掛けている。
4. 素材の状態や気温などの変化を見極めながらつくっている。



担当 / 桑野 経営指導員



「ぎる豆腐」420円 「とうふ」(もめん・上せ)150円など

のも粹アードエキスピ九州などの商談会へも出品し、さらに県の経営革新や小規模事業者持続化補助金を活用して販売促進ツールを充実させ、販路を徐々に拡大。現在は物産館や県内のスーパーなどと取引を行っている。今後は4色豆乳を使用した新商品を生み出し、展開を広げて

いきたいと考えているそうだ。昨年、初めて挑戦した納豆の製造も引き続き研究を重ねていく。こうして邁進できるのは、「商工会」という力強いサポートーーがいるから」と門前さん。特に金融面についての助言は、それまで経営の経験がなかった門前さんにとつて貴重だったという。昨年はコロ

ナ対策の助成金などの情報もいち早く知ってくれた。門前さんにとって商工会は専属の経営アドバイザーのようであり、「困つたら取りあえず相談する」頼れる存在だ。

『わたなべ豆腐店』は、販売コーンナーの奥に食事処もある。広々とした店内で、大きな窓の向こうに広がる田園風景に癒やされながら、豆腐料理や豆乳を楽しむことができる。隣接する『妙見温泉』を利用する後に、食事や休憩で立ち寄る人も多い。この食事処、一時期は店を閉めていたのだが、お客さまの要望もあって4年前に再開させた。宇佐市の『わたくなべ豆腐店』ならではの、おいしい大豆製品を多くの人に楽しんでもらいたいという思いで、「挑戦を続ければ」と前を向く門前さん。新たな商品の誕生が待ち遠しい。



元気企業に迫る！

5号連續連載
— 4回目

安心院・院内エリアの

代表取締役の重松京子さん



縣屋酒造 株式会社

江戸時代から続く300年の歴史 挑戦し続ける安心院の酒蔵

安心院にある『縣屋酒造』は1712年創業。伝統を重んじつつ、品質第一の酒造りを300年以上続けてきた酒蔵だ。クセがなく飲みやすいむぎ焼酎「安心院蔵」をはじめ、清酒「萬歳松」「双葉山」などを製造・販売している。

縣屋酒造の歴史は、江戸時代に始まつた。当時造つていたのは、清酒「萬歳松」「花筏」。その後、むぎ焼酎「安心院藏」が看板商品となつた。大分では空港や湯布院などで販売はしているものの県内の消費は少なく、現在、商品の主な出荷先は関東。昨年はコロナ禍の影響を受け、販売数は2割ほど落ち込んだ。しかし、縣屋は挑戦し続けた。2年ほど前から宇佐両院商工会の支援を受け、中小企業庁の「事業継続力強化計画認定制度」と大分県の経営革新の認定、「令和元年度補正予算ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金」などさまざまなもので支援を受けた。昨年秋には最適な温度管理に欠かせない冷却装置を導入した。醸造において理想的な「への字の温度管理」では、冷却工程で杜氏の勘や経験に頼つて扇風機を当てるなどアナログな手法から、機器の導入により労力の削減に成功。衛生面や作業の安全性にも大きく貢献し、安定した醸造が可能となつた。



1. 大正9年の写真。9代目当主と杜氏と蔵人
2. 日本有数の鰻絵の町として知られる、
風情ある安心院で酒造りを続けて300年
3. 25度から 30度まで上げたのち、
少しづつ温度を下げていく「への字」の温度管理で醸造
4. 毎日同じ時間に作業する「仕舞仕事」のようす

担当 / 桑野経営指導



看板商品の「安心院藏」や新商品「風音」などの
むぎ焼酎や清酒「双葉山」などを製造・販売

辺渓行の炭醸害りて咲れんのも
よさそうだ。

ひとつのおいに7つもの酒蔵
やワイナリーがあり、酒類製造が
盛んな宇佐市。水、米、自然と醸
造に適した環境が整っているこの
地で、重松京子代表取締役社長は
は「地場の酒文化を守り、盛り上
げていく一助になれたら」という
思いを原動力としている。これか
らはパックや少量での販売を検討
したり、若い世代のアイデアも取
り入れるなど、時代の流れを見極
めながら前進していきたいとい
う。安心院の自然と歴史の結晶、
縣屋の味わいは、これからもまだ
まだ深くなつていきそうだ。

右は竹の風味を加えたもみ焼
酎ベースのリキュールという革新
的な商品の開発にも挑戦中だ。
杜氏で製造部課長の殿畠孝治さ
んが中心となつて進めるこのプロ
ジェクトは、若者の酒離れや焼酎
のイメージ向上を目指すものだ。
真竹と麦焼酎は、ともに大分県

が生産量・出荷量日本一。その2つの要素で大分らしさを表現し、ひいては竹林の適正管理による環境保全につながれば、という思いも込められている。現在テストマーケティング中の商品は、真竹をあぶつて原酒に漬けて香りをついたもので、度数は37度ほど。最後

縣屋酒造 株式会社

大分県宇佐市安心院町
折敷田130番地
TEL.0978-44-2250
営 10:00~16:00
休 不定期

The map shows the intersection of Uso City Street (宇佐市街) and Osono Street (大分銀行前). The event location is marked with a pink square labeled 'ココ' (Here). Other labels include '安心院高' (Anshin-in High School), '安心院支所' (Anshin-in Branch Office), '安心院局' (Anshin-in Bureau), '宇佐市' (Uso City), '安心院' (Anshin-in), and '別' (Other). A station marker for 'Osono' is also present.

問 宇佐両院商工会 伴走型小規模事業者支援推進事業

〒872-0521 宇佐市安心院町下毛2112-1
TEL.0978-44-0381 FAX.0978-44-0382

元気企業に迫る！

安心院・院内エリアの

株式会社
ガリレオレーシング

日本有数のレーシングカート専用コース。



レンタルで気軽に体験できる 日本有数のレーシングカート場

安心院に、全国屈指の全長を誇るレーシングカート専門コースがあるのをご存じだろうか。その名は『ソニックパーク安心院』。全長1080メートルのJAF公認レーシングカートコースは、170メートルのロングストレートと攻めごたえのあるテクニカルコーナーで構成されている。

愛好家たちから、「走っていて面白い！」と人気の高い『ソニックパーク安心院』。子どもや初心者でも参加できるものから、迫力満点の本格的なものまで、大規模なレースを年に4回、大小合わせると月に1回のペースでレースを開催している。同施設では、こうしたカートレースの企画・運営のほか、コース貸し出しを行い、愛好家の走行会や自動車販売店の従業員教育などにも利用されている。来場者の半数は県外からで、最近では女性も増えてきている。『ソニックパーク安心院』では、レンタルカートを17台保有。1回10分2200円（初回のみ500円）の登録料が必要。毎週木曜はサービスデー価格の10分1100円で、気軽にカートを体験できるのだ。密になる心配もなく、開放的な自然の中で日常にはない解放感まで存分に味わえるはず。休日はレーサー気分で本格的なコースを走ってみてはいかがだろうか。

この施設を運営するのは、松本



- 代表取締役社長の松本 早苗さん。
- オリジナルブランド「GR SPORTS」のモータースポーツ用品を製造・販売。
- 本格的に楽しみたい方は「エキスパートモデル」、初心者は乗りやすいノーマルカートで。
- 補助金で看板などをリニューアル。



担当 / 三ヶ田 経営指導員



レンタルカートが並ぶピット。

タースポーツ用品製造・販売事業『GR SPORTS』を立ち上げ、価格品質・品ぞろえで愛好家に喜ばれている。宇佐両院商工会のサポートを受け、補助金を活用したホームページのリニューアルやチラシの作成・配布、看板の設置など広報活動にも力を注ぐ。またカート場がある『家族旅行村安心院』エリア施設の指定管理者も兼務。安心院だけでなく、九州全体を盛り上げていきたいという思いも強い。

「日本有数のワナリーラーがすぐそばにあり、ここのおススメは日本有数。宿や食事処、観光スポットなどもあって遠方から来ても便利で楽しい」と、安心院について語ってくれた松本さん。その魅力をぜひ、あなたにも味わってほしい。

株式会社ガリレオレーシング 「ソニックパーク安心院」

宇佐市安心院町木裏985-1
TEL.0978-44-0322
営9:00~17:00
休火曜

問 宇佐両院商工会 伴走型小規模事業者支援推進事業
〒872-0521 宇佐市安心院町下毛2112-1
TEL.0978-44-0381 FAX.0978-44-0382



元気企業に迫る！

安心院・院内エリアの

津房館

代表取締役の二日一哲也さん



100歳過ぎても食を楽しめる ユニバーサルデザインフードに取り組む

明治33年の開業以来、観光客と地域住民の癒やしの場として愛されている温泉旅館『津房館』。従業員すべてが板前で、地元の旬の食材を使用したこだわりの料理も自慢の宿だ。

宿泊業をメインに、宴会や団体への食事提供、弁当、仕出しなどを行っている老舗温泉旅館『津房館』。4代目として旅館を切り盛りする二日一哲也さんは、歴史にあぐらをかくことなく、時代の流れに沿った進化を模索している。全室利用可能なWi-Fi設備、スロープや手すり、畳の部屋に椅子とテーブル席を設置、新館の増築などハード面の整備も進めてきたが、この旅館の「核」は、やはりこだわりの料理。毎朝市場に出向き、自ら選び抜く地元の旬の食材と、磨き上げた職人の腕でつくる懷石料理や仕出しは、その味を求めるリピーターも多い。

常連客の中でも、日頃から法事などで利用してくれる地域住民は、老舗を支え続けてくれたのが、「ユニバーサルデザインフード」。食材を刻んだりとろみを加えるなどして、「食べやすく、かつおいしい料理」の提供を開始した。メニューは、秋には天然のとろみを活かし



1. 地域で採れる「アミタケ」は夏～秋の季節限定の美味しい食材
2. 平成30年に建て替えた新館にはユニットバス付きの和室を整備
3. 大広間は120名収容。30～50名など人数に合わせて分けて使用することもできる
4. 旅館裏手の「津房温泉」は源泉かけ流し。「美人の湯」と称されるアルカリ性単純泉



担当 / 三ヶ田 経営指導員

たアミタケというきのこの会席や、骨を取り除き身を柔らかく仕上げたスッポン料理など、地元ならではの食材を活用したものの。「高齢になっても、いつまでもおいしいものを食べてもらいたい」という思いのもと、「100歳を過ぎても楽しめる温泉旅館」を目指して動き始めた。ま

た同旅館では、とろみ調整剤の使用やアレルギーなどの対応を始めている。こうした細やかなサービスは大きな施設では難しく、ましてや手間のかかるユニバーサルデザインフレードを公式に提供しているのは九州でも2～3件ほど、大分県内では『津房館』のみとなる見込みだ。



1泊2食付き「すっぽんフルコースプラン」1万5120円～
のお料理

コロナ禍の中、新たな挑戦へと奮い立たせてくれたのは、応援をしてくれた周囲の人々や行政担当者の声。宇佐両院商工会によると、企画アドバイスや補助金申請などのサポートもあり、順調に事業を進められたとい。さらに背中を押したのは、高校生の息子さんの言葉。幼いころから続けた野球で甲子園出場を果たし、進学校に通う」と自ら宣言。「自分もまだまだ頑張ろう」と新たな一步を踏み出す勇気をくれた。今月から、Gotoキヤンペーンにも参加した『津房館』。高齢の方も食べやすい・おいしい懐石料理の宿へ、ご家族・ご親族と一緒に足を運んでみてはいかがだろうか。

津房館

宇佐市安心院町六郎丸477-2
TEL.0978-48-2208

■10:00～14:00
16:00～21:00
休不定休

問 宇佐両院商工会 伴走型小規模事業者支援推進事業

〒872-0521 宇佐市安心院町下毛2112-1
TEL.0978-44-0381 FAX.0978-44-0382



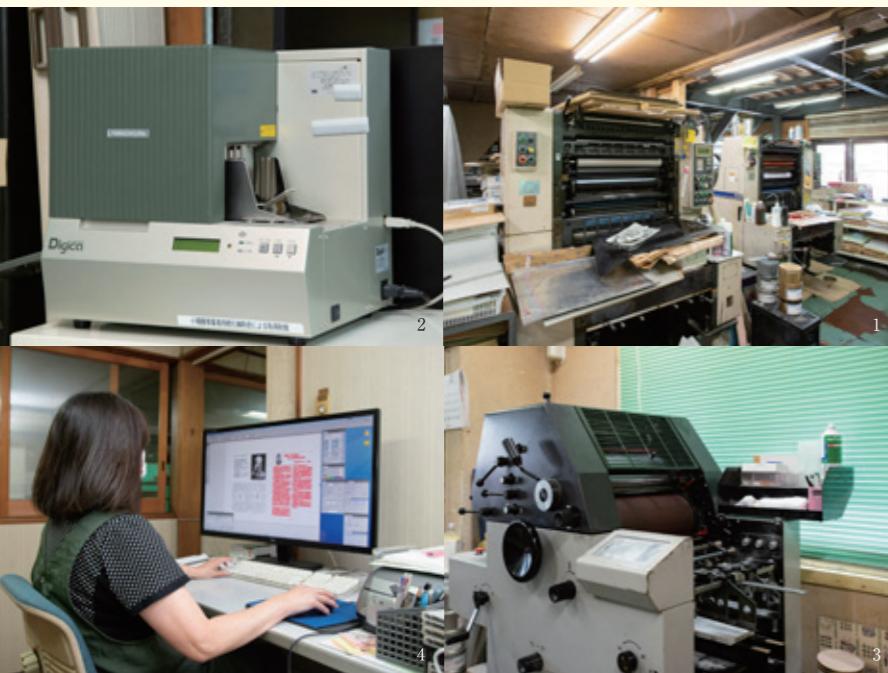
元気企業に迫る！ 安心院・院内エリアの

その1

安心院印刷



『安心院印刷』代表の川野克喜さん



1. メインで使用しているオフセット印刷機器
2. 補助金で導入した「デジカ」
3. タテ型オフセット印刷機
4. 自社でデザイナーを抱え、総合的なサービスを提供



担当 / 三ヶ田 経営指導員



1958年の創業以来、地域の印刷屋さんとして頼られてきた

る思いは、年齢と経験を重ねるごとに一層強くなっている。事業の発展には新しい機器ももちろん必要だが、「安心院印刷」の真髓はなんといつても紙質など素材にも精通した印刷における専門知識、フレキシブルに対応する納期、伝票や製本など細やかな要望に応じながらから製作できるところにある。それができるのは、昔ながらの職人気質の社員たちがいるからこそ。プロフェッショナルな意識と知識、技術で、ネットではできない品質や納期などを細やかに対応する、昔ながらの地域の「印刷屋さん」。これからも安心院に根付いて、さまざまなもの思いを紙上で形にしていくのだろう。

レミアム商品券など行政の仕事はまだ多く、昔からの得意先も存在する。長く勤めてくれている従業員もいる。

「70歳まで頑張つてみよう」と念発起した川野さんは、昨年新たに「歩み出すことを決意。商工会のサポートを受けながら『小規模事業者持続化補助金』

を取得し、特殊加工などオフィス用や既存のプリンターでは難しい名刺やポストカードの印刷を可能にする、新しい印刷機器を導入した。いすれは「ものづくり補助金」などを活用し、オンライン印刷の機器を導入してさらなる需要の開拓を目指したいという。地域と事業の活性化に対する

ネットにはできない印刷サービスを

1958年創業の『安心院印刷』は、60年以上経ち時代が様変わりした今もコツコツと歩み続けている。地域で愛される印刷会社の代表を務めるのは、宇佐両院商工会の会長としても活躍する川野克喜さんだ。

『安心院印刷』が創業したのは、戦後間もなくの活版印刷全盛期。当時の安心院の人口は17000人ほどで、町の中心部には映画館やホテルなどがあり、多くの人がで賑わっていたという。現代表の川野さんは24歳の時、先代はオフセット印刷へと移行し始めたころだった。31歳で代表を引き継いでからしばらくは、景気もよく年に3日ほどしか休みないほど多忙を極めた。プライベートでも宇佐両院商工会の青年部に所属し、2日に一度は仕事が終わると会議やイベントなどの活動に参加。40歳で青年部長となり、盆祭りや「ぶどう・鯉・すっぽんの町」安心院にかけたイベント「鯉のつかみどり」などを指揮したそうだ。

活気にあふれた町と順調な事業。しかし、時が過ぎていくにつれて町は過疎化が進み安価なネット印刷の台頭で仕事量は減少傾向に転じた。かつては大量にあつた年賀状や、さらに新型コロナウイルスの影響で別府・湯布院など観光に関わる印刷の仕事も激減。そんな流れのなかで、川野さんは60歳をめどに事業をやめようかと考えたこともあるという。しかし、地域のポスターやブ

安心院印刷

宇佐市安心院町下毛1772-2
TEL.0978-44-0073
営8:30~18:00
休土・日曜、祝日



〒872-0521 宇佐市安心院町下毛2112-1
TEL.0978-44-0381 FAX.0978-44-0382

問 宇佐両院商工会 伴走型小規模事業者支援推進事業

